(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3212977号
(U3212977)
(45)発行日　平成29年10月12日(2017.10.12)　(24)登録日　平成29年9月20日(2017.9.20)

(51)Int.Cl.　F I
A47G 9/10 (2006.01)　A47G 9/10 M

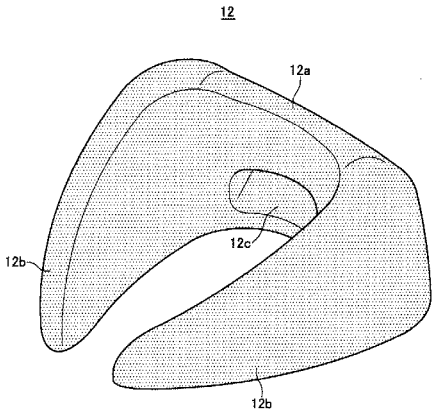
評価書の請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2017-3501(U2017-3501)
(22)出願日　平成29年7月31日(2017.7.31)

(73)実用新案権者　000105154
株式会社ＧＳＩクレオス
東京都千代田区九段南２丁目３番１号
(74)代理人　100128358
弁理士　木戸　良彦
(74)代理人　100086210
弁理士　木戸　一彦
(72)考案者　木村　忠司
東京都千代田区九段南二丁目３番１号　株式会社ＧＳＩクレオス内

(54)【考案の名称】ネックピロー

(57)【要約】
【課題】持ち運ぶ際に容積を小さくでき、携帯に適したネックピローを提供する。
【解決手段】人体の頸部背面に配置される背面支持部１２ａと、背面支持部１２ａの両端から突出し、頸部の側面に配置される一対の側面支持部１２ｂとを備えたU字状のピロー本体１２と、ピロー本体１２を内部に収容するピローカバーとを備える。ピロー本体１２は、背面支持部１２ａの中央部に内面と外面とに開口する空隙部１２ｃを形成し、空隙部１２ｃの内面側の開口面積を外面側の開口面積よりも小さく形成する。ピローカバーは、背面支持部１２ａをカバーする背面カバー部と、一対の側面支持部１２ｂをカバーする一対の側面カバー部とを一体に備えた袋状の布で形成し、一対の側面カバー部の先端部同士を係合させる第１係合手段と、一方の側面カバー部の先端と背面カバー部の外面とを係合する第２係合手段とを設ける。
【選択図】図９



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
人体の頸部背面に配置される背面支持部と、該背面支持部の両端から突出し、頸部の側面に配置される一対の側面支持部とを備えたＵ字状のピロー本体と、該ピロー本体を内部に収容するピローカバーとを備えたネックピローにおいて、
前記ピロー本体は、柔軟性及び可撓性を備えた材料で形成され、背面支持部の中央部に、人体の頸部側に配置される内面と、該内面に対向する外面とに開口する空隙部を形成し、該空隙部の内面側の開口面積を、外面側の開口面積よりも小さく形成したことを特徴とするネックピロー。
【請求項２】
前記ピローカバーは、前記背面支持部をカバーする背面カバー部と、前記一対の側面支持部をそれぞれカバーする一対の側面カバー部とを一体に備えた袋状の布で形成され、前記一対の側面カバー部の先端部同士を係合させる第１係合手段と、一方の側面カバー部の先端と前記背面カバー部の外面とを係合する第２係合手段とを設けたことを特徴とする請求項１記載のネックピロー。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、首の周囲に装着して頭部を支えるネックピローに関し、詳しくは、携帯に適したネックピローに関する。
【背景技術】
【０００２】
ネックピローは、航空機や車等の乗り物に乗って移動する際に、頭部を支えて疲れを緩和させるとともに、座席に座った状態で快適な睡眠を得るために使用されるもので、肩に載せて首の周囲に装着可能な略Ｕ字状に形成されている（例えば、特許文献１及び２参照。）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】実用新案登録第３１９０４１３号公報
【特許文献２】実用新案登録第３０７５０７２号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
しかし、上述の特許文献１及び２のものでは、比較的大きな形状を有することから、持ち運びに不便であった。
【０００５】
そこで本考案は、持ち運ぶ際に容積を小さくすることができ、携帯に適したネックピローを提供することを目的としている。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記目的を達成するため、本考案のネックピローは、人体の頸部背面に配置される背面支持部と、該背面支持部の両端から突出し、頸部の側面に配置される一対の側面支持部とを備えたＵ字状のピロー本体と、該ピロー本体を内部に収容するピローカバーとを備えたネックピローにおいて、前記ピロー本体は、柔軟性及び可撓性を備えた材料で形成され、背面支持部の中央部に、人体の頸部側に配置される内面と、該内面に対向する外面とに開口する空隙部を形成し、該空隙部の内面側の開口面積を、外面側の開口面積よりも小さく形成したことを特徴としている。
【０００７】
また、前記ピローカバーは、前記背面支持部をカバーする背面カバー部と、前記一対の

側面支持部をそれぞれカバーする一対の側面カバー部とを一体に備えた袋状の布で形成され、前記一対の側面カバー部の先端部同士を係合させる第１係合手段と、一方の側面カバー部の先端と前記背面カバー部の外面とを係合する第２係合手段とを設けると好適である。

【考案の効果】

【０００８】

本考案のネックピローによれば、ピロー本体の背面支持部の中央部に空隙部が形成されていることから、背面支持部を変形させやすく、双方の側面支持部を背面支持部の内側に丸め込んで、ネックピローの容積を小さくして携帯に適した形状とすることができる。

【０００９】

また、ピローカバーは、背面支持部をカバーする背面カバー部と、一対の側面支持部をそれぞれカバーする一対の側面カバー部とを一体に備えた袋状の布で形成され、一対の側面カバー部の先端に、互いに係合する第１係合手段を設けたことにより、ネックピローを頸部に掛けた後、第１係合手段を係合させることにより、ネックピローを安定した状態で頸部の周囲に保持させておくことができる。さらに、一方の側面カバー部の先端と背面カバー部の外面とを係合する第２係合手段を設けたことにより、ネックピローの他方の側面支持部を背面支持部の内側に丸め込むとともに、一方の側面支持部を、丸め込んだ他方の側面支持部の外側に沿って丸めた後、第２係合手段を係合させることにより、ネックピローの容積を小さくした状態で保持させることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本考案の一形態例を示すネックピローの正面図である。

【図２】同じくネックピローの背面図である。

【図３】同じくネックピローの斜視図である。

【図４】同じくネックピローを丸めた状態の斜視図である。

【図５】同じくピロー本体の正面図である。

【図６】同じくピロー本体の背面図である。

【図７】同じくピロー本体の一部断面平面図である。

【図８】図５のVIII-VIII断面図である。

【図９】本考案の一形態例を示すピロー本体の斜視図である。

【図１０】同じくネックピローの使用状態を示す説明図である。

【考案を実施するための形態】

【００１１】

図１乃至図１０は、本考案のネックピローの一形態例を示す図で、本形態例のネックピロー１１は、クッション性を有する軟質のウレタンフォーム等で形成されるピロー本体１２と、該ピロー本体１２を内部に収容する布製のピローカバー１３とを備えている。

【００１２】

ピロー本体１２は、人体の頸部背面に配置される背面支持部１２ａと、該背面支持部１２ａの両端から突出し、頸部の側面に配置される一対の側面支持部１２ｂ，１２ｂとを備えたU字状に形成されている。また、背面支持部１２ａの中央部には、人体の頸部側に配置される内面と、該内面に対向する外面とに開口する空隙部１２ｃが形成されており、該空隙部１２ｃの内面側の開口面積は、外面側の開口面積よりも小さく形成されている。

【００１３】

ピローカバー１３は、背面支持部１２ａをカバーする背面カバー部１３ａと、一対の側面支持部１２ｂ，１２ｂをそれぞれカバーする一対の側面カバー部１３ｂ，１３ｂとを一体に備えた袋状の布で形成されている。各側面カバー部１３ｂの先端には、帯部材１３ｃがそれぞれ取り付けられ、一方の帯部材１３ｃには雌側スナップボタン１４ｂが取り付けられ、他方の帯部材１３ｃには、帯部材１３ｃの長さ方向に所定の間隔を空けて、雌側スナップボタン１４ｂに係合する２つの第１雄側スナップボタン１４ａ，１４ａが取り付けられている（本考案の第１係合手段）。また、背面カバー部１３ａは、外面の中央部に、

雌側スナップボタン１４ｂに係合する第２雄側スナップボタン１４ｃが取り付けられている（本考案の第２係合手段）。さらに、背面カバー部１３ａの下面には、ピロー本体１２を出し入れさせるチャック部１５が設けられている。

【００１４】

上述のように形成された本形態例のネックピロー１１は、例えば、航空機や車等の乗り物に乗って移動する際に、図１０に示されるように、背面支持部１２ａを頸部背面に配置させ、側面支持部１２ｂ，１２ｂを左右の肩の上部に載せるとともに頸部側面に配置し、何れか一方の第１雄側スナップボタン１４ａと雌側スナップボタン１４ｂとを係合させる。これにより、ネックピロー１１で頭部を支えて疲れを緩和させることができるとともに、座席に座った状態で快適な睡眠を得ることができる。また、雌側スナップボタン１４ｂと係合させる第１雄側スナップボタン１４ａ，１４ａを選択することにうより、ネックピロー１１の頸部回りへの装着具合を調整することができる。

【００１５】

また、ネックピロー１１を持ち運ぶ際には、図４に示されるように、他方の側面支持部１２ｂを背面支持部１２ａの内側に丸め込むとともに、一方の側面支持部１２ｂを、丸め込んだ他方の側面支持部１２ｂの外側に沿って丸めた後、第２雄側スナップボタン１４ｃと雌側スナップボタン１４ｂとを係合させることにより、双方の側面支持部１２ｂ，１２ｂを背面支持部１２ａの内側に丸め込んだ状態で保持することができ、ネックピロー１１の容積を小さくして、携帯に適した形状とすることができる。さらに、このように容積を小さくした状態のネックピロー１１を巾着袋等に収容して持ち歩くこともできる。

【００１６】

さらに、側面支持部１２ｂ，１２ｂを背面支持部１２ａの内側に丸め込む際に、ピロー本体１２の背面支持部１２ａの中央部に空隙部１２ｃが形成されていることから、背面支持部１２ａを変形させやすく、ネックピロー１１の容積を容易に小さくさせることができる。また、ネックピロー１１は、背面支持部１２ａに頭部の重量が大きく掛かることはないことから、背面支持部１２ａに空隙部１２ｃを形成しても、ネックピロー１１の耐久性の低下や使用感の低下を招く虞がない。さらに、ピローカバー１３は、ピロー本体１２から取り外して洗濯することができ、衛生的に使用することができる。

【００１７】

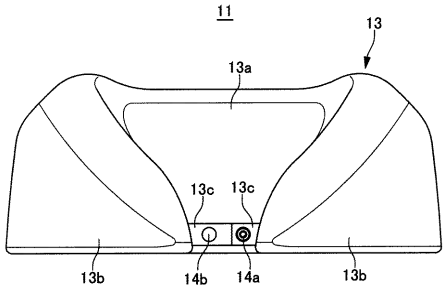
なお、本考案のピロー本体の材料は、ウレタンフォームに限るものではなく、柔軟性及び可撓性を備えたものであれば、通常の枕に使用される材料を適用することができる。また、第１係合手段や第２係合手段は、スナップボタンに限らず、面ファスナー、マグネットボタン等、周知の係合手段を用いることができる。

【符号の説明】

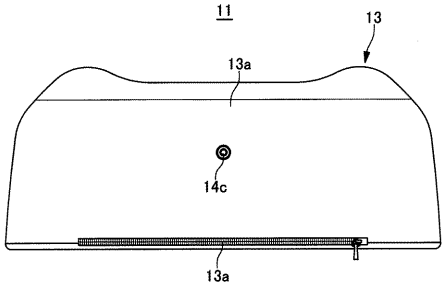
【００１８】

１１…ネックピロー、１２…ピロー本体、１２ａ…背面支持部、１２ｂ…側面支持部、１２ｃ…空隙部、１３…ピローカバー、１３ａ…背面カバー部、１３ｂ…側面カバー部、１３ｃ…帯部材、１４ａ…第１雄側スナップボタン、１４ｂ…雌側スナップボタン、１４ｃ…第２雄側スナップボタン、１５…チャック部

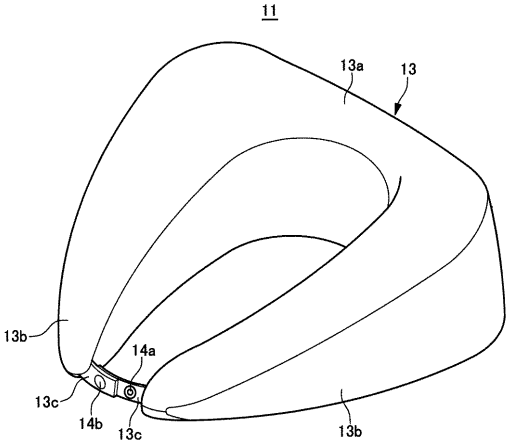
【図１】



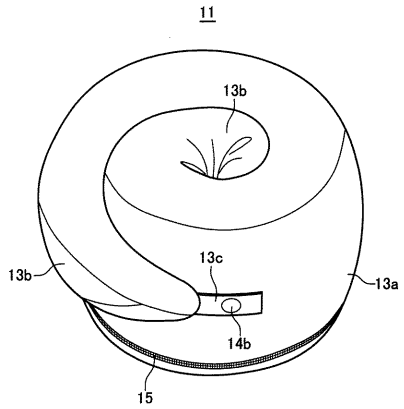
【図２】



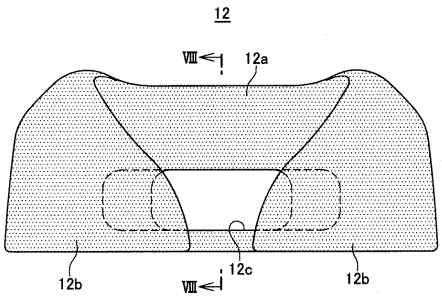
【図３】



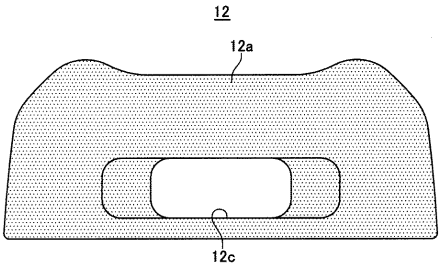
【図４】



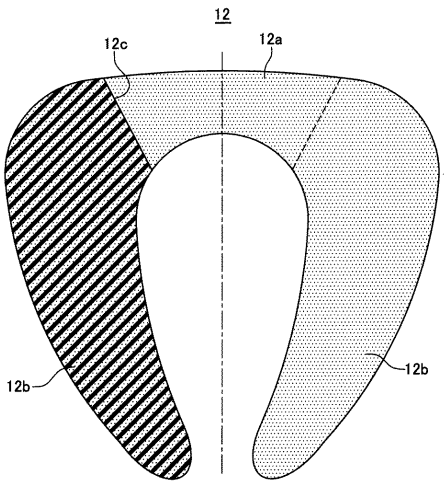
【図５】



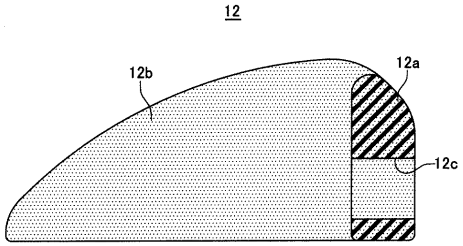
【図６】



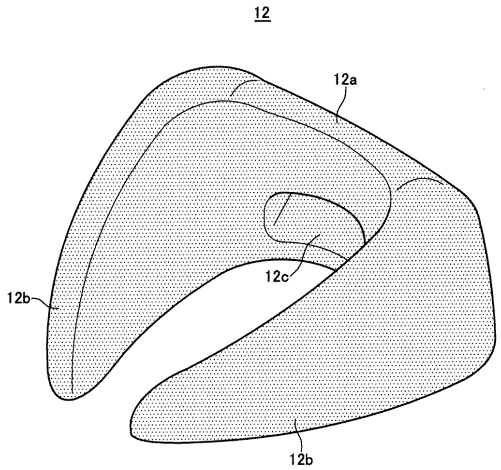
【図７】



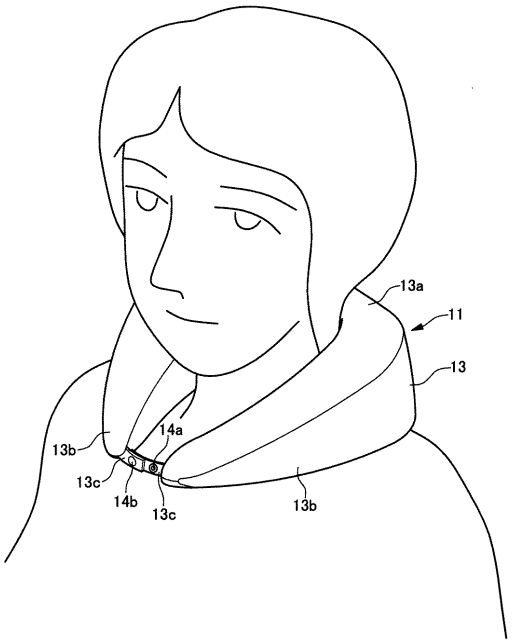
【図８】


12
12b
12a
12c

【図９】


12
12a
12c
12b
12b

【図１０】


13a
11
13
14a
13b
13c
14b
13c
13b